

助動詞 「じ」「まじ」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
まじ	じ	○	○	じ	じ	○
まじく		まじく		まじ	まじ	
	まじき		まじき		まじけれ	
		○	○			

◇接続

「じ」は未然形接続、「まじ」は終止形接続（ヲ変型には連体形接続）になります。

◇意味

① 打消推量 「～ないだろう」

： 主語が「三人称」のことが多い。

例) 暗けれど、久しく住み慣れし里なれば迷ふべうもあらじと、（雨月物語）
（暗かつたが、長い間住み慣れた故郷であるから迷うはずもないだろうと、）

② 打消意志 「～よう」

： 主語が「一人称」のことが多い。

例) 昔、男ありけり。その男、身をえうなきものに思ひなして、京にはあらじ、（伊勢物語）
（昔、男がいた。その男は、自分を役に立たないものと思い込んで、京にはいるまい、）

③ 不可能 「～できない」

： 「え～まじ」の形になることが多い。

例) 姫抱きてゐたるかぐや姫、外に出でぬ。えとどむまじければ、（竹取物語）
（姫が抱いて座っていたかぐや姫は、外に出てしまつた。ひきとめることができないので、）